

高度架線技能者育成研修 実施要領[集材機研修] (OJT型研修)

一般社団法人 フォレスト・サーベイ

目次

1. 実施する趣旨	2
2. 研修カリキュラム	4
3. 研修実施に当たっての役割分担	5
4. 研修の進め方	5
◆ 講師との日程調整	6
◆ 研修会場の選定	6
◆ 研修器材等の準備	7
◆ 受講要件	8
◆ 研修経費等の負担（添付資料を参照）	8

1.実施する趣旨

一般社団法人フォレスト・サーベイ（以下「当法人」という。）は、平成26年度に開発した育成プログラム及び技術マニュアル等を用いて、効率的な線形で作設された路網を活用して、低コストで効率的な作業システムを構築し、安全性と生産性を向上する高度な現場技能者を育成するための研修（以下「育成研修」という。）を行うこととしています。

育成研修では、座学はじめ、作業計画や架線計画、支柱作設実習等の現地実習を実施して受講生個々のレベルアップを図ることとしており、都道府県と共同で実施する「県共催型」のほか、林業事業体等の職場内研修として実施する「OJT型」、当法人が都道府県の協力を得ながら直接実施する「直営型」の方法によって実施します。研修の実施にあたっては、当法人が講師の派遣や必要な経費負担等の支援を行います。

● 高度架線技能者の育成の目的

- 安全で効率的な架線集材を実施することができる現場技能者の育成
 - ◇ 熟練技能者からの指導による架線作業等のノウハウ・コツの習得
 - ◇ 安全性や生産性を意識した架線計画の立案及び架線作業の実施
 - ◇ 作業指揮者としてのリーダーシップの醸成

● 高度架線技能者育成研修のポイント

- 安全で効率的な架線作業を行うための基本的な考え方を学ぶ講義
 - ◇ 林業架線作業主任者の職務を再確認し、安全作業への意識を向上
 - ◇ 安全な架線作業を行うために必要な基礎力学や安衛則の則った架線作業の基本を理解
 - ◇ 生産性の把握方法や向上策を理解し、生産性への意識を向上
- 架線計画の立案と生産性把握の考え方を習得する架線計画実習・演習
 - ◇ 班長を中心に受講生が自ら考える架線計画実習・演習
 - ◇ 集材架線設計計算により、主索や作業索にかかる張力を「見える化」
 - ◇ QGIS、DEM等を使用して地形縦断及び主索の垂下量を推定するシミュレーションを実施
 - ◇ 主索や作業索にかかる張力や基礎力学を考慮した現地踏査の実施
 - ◇ 生産性のシミュレーションにより生産性把握の考え方を習得

- 安全な作業を行うために必要なワイヤロープ加工実習
 - ◇ 基本となるワイヤロープの加工方法（「巻き差し」又は「かご差し」、フレミッシュ加工、半差し、心綱の編み込み）を理解
 - ◇ 現場で不良品を使用しないという安全への意識を向上
- 安全性や効率性を意識した支柱作設実習
 - ◇ 安全で効率的な作業方法を指示する立場となることを想定した実習
 - ◇ 安衛則に則ったブロック類やガイラインの設置作業を実践
- 機械集材装置の設置状況の良否を判断するための実習
 - ◇ 架線集材現地見学により機械集材装置の設置状況に問題が無いか判断する知識を習得
- 作業指揮者としてのリーダーシップの醸成
 - ◇ リーダーとして、作業内容等の他者への指示・説明を実践
 - ◇ 他者へ説明できる作業を行うことで、自分が行う作業に対する自信と責任感を向上
- 熟練技能者によるノウハウ・コツを指導
 - ◇ 実習を通じた意見交換により、架線作業の熟練技能者がノウハウ・コツを指導
- ICT等先端技術の活用に関する知識の習得

● 研修実施のノウハウを共有

- 現地会場設定のポイント
- 研修実施に必要な器材の種類や数量等
- 架線集材を行うための基礎となる知識
 - ◇ 技術マニュアルによる基礎知識の講義
 - ◇ 労働安全衛生規則を遵守した安全作業の考え方
 - ◇ 架線計画の重要性と計画のポイントとなる考え方

2.研修カリキュラム

- ・ 受講人数は、1班（講師1名）当たり5名程度とします。
- ・ 研修期間は、5日間（実質4.5日間）とします。
- ・ 架線集材現場見学会場が確保できない場合には、架線作業のDVD視聴及び架線現場写真を用いた演習を行います。

日程	時間	内 容
1日目	9:00～ 9:15	開講式、オリエンテーション
	9:15～12:00	【講義】：技術マニュアル 第1章（架線の動向） 第2章（索張り方式） 第3章（生産性） 第4章（架線計画） 第4章（集材架線設計計算）
	13:00～14:00	【講義】：技術マニュアル・模型 参考資料（基礎力学等） ICT等先端技術の取組
	14:00～17:00	【演習（室内）】：作業計画・架線計画（机上計画） （机上計画・架線設計計算・地形縦断及び垂下量の推定） （現地状況把握やシミュレーションではQGIS、DEM等を使用）
2日目	8:30～15:00	【実習】：作業計画・架線計画（現地踏査）
	15:00～17:00	【演習】：作業計画・架線計画（計画立案）
3日目	8:30～12:00	【実習】：作業計画・架線計画（計画発表・討議）
	13:00～14:30	【演習】：作業計画・架線計画（計画立案） （集材架線設計計算・生産性予測のシミュレーション）
	14:30～17:00	【講義】：技術マニュアル・意見交換 第3章（作業日報） 第5章（架線集材作業） 第7章（ワイヤロープ等の概要） 第8章（機械集材装置の点検） 第9章（安全作業・取り組み事例発表） 第10章（架線集材作業の留意事項）
4日目	8:30～12:00	【実習】：支柱の作設作業等
	13:00～16:00	【実習】：現地見学による機械集材装置の設置状況確認
	16:00～17:00	【意見交換】：機械集材装置の設置状況確認結果の 発表・意見交換
5日目	8:30～10:30	【実習】：ワイヤロープの加工
	10:30～11:30	【意見交換】：架線現場写真を用いた意見交換
	11:30～12:00	全体意見交換・閉講式

● 研修の概要

- ・ 日程の変更（前半は、架線計画立案にかかる講義・演習を中心とし、後半は、支柱の作設、架線集材現場の見学、ワイヤロープ加工等の実習を中心に実施）
- ・ 架線作業に関する基礎力学を座学で実施
- ・ 架線計画では、QGISを用いて主索の垂下量を推定するシミュレーションを実施

3. 研修実施に当たっての役割分担

■ 研修実施希望者

- ・ 研修実施希望書の提出
- ・ 研修実施計画書の提出
- ・ 研修会場の確保
- ・ 講師の選定（日程調整）
- ・ 受講生の受講要件の確認（林業架線作業主任者免許証のコピーの提出）
- ・ 緊急連絡体制図、受講生・講師の緊急連絡先の作成
- ・ 研修で使用する器材等の一部（梯子、サドルブロック等）の準備
- ・ 安全管理、進捗状況管理への協力
- ・ 作業計画、架線計画地の地形図（1/5,000）、森林基本図等の準備

■ 当法人

- ・ 受講要件や研修カリキュラム等の提示
- ・ 講師の選任及び派遣依頼等の事務手続き
- ・ 研修教材・器材等の提供及び会場確保の協力（事前確認等）
- ・ 研修受講希望者の審査
- ・ 安全管理、進捗状況管理
- ・ 研修経費の支払い（室内会場の借料、講師の謝金・旅費等）
- ・ 研修で使用する器材等の準備（ワイヤロープの調達を含む）

4. 研修の進め方

- ① 研修実施希望者は、**研修実施希望書**（別紙様式）を当法人に提出
- ② 当法人から、実施希望者に「実施決定のお知らせ」と「研修の進め方」等の詳細資料・様式等（当法人ホームページからのダウンロード方法）を送付（実施希望者に対して、当法人では、担当者を配置し、連絡調整や講師選定、研修会場選定等をサポート）
- ③ 実施希望者は、研修期間、講師予定者や研修会場を選定した上で、**研修実施計画書**（別紙様式）を**研修実施の1カ月前までに提出**
- ④ 当法人は、実施希望者と調整して講師を決定し、講師依頼書を所属長宛に送付
- ⑤ 実施希望者は、受講生の受講要件を確認した上で、**受講生一覧、受講生プロフィールシート、緊急連絡体制図等**を**研修実施の2週間前までに提出**
- ⑥ 研修実施前に、講師・実施希望者・当法人で**事前打合せ（事前確認）**を実施（研修の進め方、研修会場の確認、器材等の確認等）
- ⑦ 研修の実施
（実施希望者の協力を得ながら**研修期間中の運営管理等は当法人が実施**）

◆ 講師との日程調整

講師は、当法人が都道府県別に把握している熟練技能者のリストの中から平成 26 年度実施の当該事業の「試行的運用検討会」又は平成 27 年度実施の「現地検討会」に参加した者を基本として選定することになります。

なお、講師の選任は、実施希望者の意向を勘案して当法人が行いますが、選任した講師との日程調整等については、実施希望者で行っていただきますようお願いをいたします。

◆ 研修会場の選定

育成研修の会場として、座学会場、作業計画・架線計画実習会場、支柱作設実習会場、架線集材現場見学会場、ワイヤロープ加工実習会場が必要であり、それぞれの会場は、以下の点に注意して選定してください。

なお、研修会場選定に当たっては、当法人の担当者がサポートしますので、気軽にご相談ください。

➤ 座学会場

研修期間中（4.5日間）の使用が可能であり、プロジェクター等が利用できる場所を確保してください。

・ 作業計画・架線計画実習会場

路網から近く、伐期に近い立木の存する場所（皆伐を想定）が望ましいです。

- ・ 集材範囲等の詳細は、講師・実施希望者・当法人との事前確認により決定

・ 支柱作設実習会場

元柱・先柱を想定した支柱作設が可能で、器材等の運搬が容易な路網近くの場所を選定してください。

- ・ 使用する台付けロープの長さを考慮した立木の選定
- ・ 使用する立木等は、講師・実施希望者・当法人との事前確認により決定

・ 架線集材現場見学会場

集材機による主索を用いた索張り方式での架線集材現場を選定して下さい。見学会場が確保できない場合は、架線作業のDVD視聴と架線現場写真を用いた演習を実施します。

- ・ 架線集材現場を見学することができれば、より現実的な実習が可能

・ ワイヤロープ加工実習会場

できるだけ屋根のある建物で、降雨等でも支障なく実施できる場所が望ましいです。

- ・ 座学会場から現地実習の各会場までの移動時間は、概ね1時間程度以内を想定し、研修の日程を無理なく実施できる範囲で実習会場を選定してください。

- ・ 2班で同時に研修を実施する場合は、2班が同時に実習可能な場所を選定してください。

【過去の育成研修における実習会場の選定例】

○作業計画・架線計画実習会場

- ： 県有林（試験林、実験林）や市有林において、皆伐を想定して実施
 - ： 森林組合が伐採（皆伐）を予定している民有林で実施
 - ： 間伐実行後の県有林で、皆伐を想定して実施
 - ： 大学の演習林において、皆伐を想定して実施
- いずれも伐期に近い林分で実施

○支柱作設実習会場

- ： 県有林・市有林の林道や作業道端で、胸高直径 30cm 程度の立木を支柱に想定して実施
- ： 県の研修フィールド内で、広葉樹を支柱に想定して実施

○架線集材現場見学地

- ： 森林組合が実行中のエンドレスタイラー方式の架線集材現場
- ： 林業事業体が実行中（皆伐）のダブルエンドレス方式の架線集材現場
- ： 林業事業体が実行中のエンドレスタイラー方式の架線集材現場

○ワイヤロープ加工実習会場

- ： 林業技術センター等の機械実習棟
- ： 機械庫、車庫、駐車場

◆ 研修器材等の準備

- ・ 研修教材の「高度架線技能者技術マニュアル 2014」、DVDについては当法人が準備します。なお、受講生には、無料で配付します。
- ・ 支柱作設、ワイヤロープ加工の実習で使用する器材等は、基本的には、当法人が所有しているものを搬送して使用しますが、下表の使用器材については、搬送が大変であることから、実施希望者から借用して使用したいと考えております。準備できないものがある場合は、事前にご連絡ください。

使用器材	数量	用途等
梯子（固定用のロープ付き）	1 個	支柱作設作業
サドルブロック	1 個	主索を 22mm に想定した大きさのもの
ガイドブロック	1 個	7 インチ程度
作業台（角材又は短コロ）	1 個	ワイヤロープ加工実習で、アイスプライス後、ハンマーでの整形作業の台として使用

◆ 受講要件

受講生になるには、次の4つの要件をすべて満たしていることが必要です。

- ◇ 高度な架線技術に必要な技能を習得しようとしている者であること。
 - ◇ 林業架線作業主任者免許を有している者であること。
 - ◇ 林業架線作業（ワイヤロープ加工を含む）の実務経験者であること。
 - ◇ 研修期間中も労働者災害補償保険の適用を受けている者（個人事業主は問わない）であること。
- ※ 林業架線作業主任者免許証のコピーを研修実施2週間前までに当法人に提出してください。
 - ※ 緑の雇用担い手対策事業における研修生が受講する場合、本研修の実施期間は、同事業による研修実施日から除外し、補助事業と委託事業による研修が重複して実施することのないよう注意してください。
 - ※ 所定の育成研修を修了した者に対して修了証書（林野庁長官名）を発行します。ただし、ワイヤロープ加工実習及び支柱作設実習で、技量不足及び研修の受講態度等から十分な研修ができなかったと講師等が判断した場合は、当該受講生には修了証書の発行ができないことがあります。

◆ 研修経費等の負担（添付資料を参照）

- ・ 研修の受講料は、無料です。
- ・ 研修に係る経費については、全て、当法人が負担します。（実施希望者が負担する経費はありません。）